

若者が集うまち阿南を スケートボードから盛り上げていきたい

萩野 敦士さん (阿南スケートボード協会 会長)



「技を競い合うだけでなく、住んでいる地域や世代を超えて打ち解け合える。そんなところに魅力を感じています。」と、スケートボードへの熱い思いを語るのは、阿南スケートボード協会会長の萩野敦士さん。平成21年9月に県内で初めてスケートボード協会を設立し、スポーツとして、その普及・振興に力を注いでいる。

萩野さんがスケートボードを始めたのは高校3年の終わり。野球部を引退し、何か打ち込めるものはないかと始めたのがきっかけ。「技が決まった瞬間は言葉にできない喜びがあります。」と、すっかり魅了されている。野球からスケートボードに乗り換え青春を謳歌する、若きリーダーが描く夢。それは、いつか阿南をスケートボードのまちにすることだ。

昨年12月4日、羽ノ浦健康スポーツランドにスケートボード専用施設が完成した。白銀に輝くスケートボード場は、100人を超すスケーターでにぎわった。施設の充実度は四国一ともいわれ、「いくら滑っても飽き足りない」と、多彩なコース設定がスケーターの心をつかんでいる。意気揚々と初乗りを楽しむ若者の姿に目を細める萩野さん。この日を迎えるまでにはつらいことも多かっただけに、感慨もひとしおだ。「スケートボードは不良の遊び。そんな風に思われているのがかく嫌でした。何とかして悪いイメージをぬぐい去り、健全なスポーツであることを知ってもらいたかった。協会を立ち上げたことも、奉仕活動に取り組んでいることも、そんな思いが原点になっています。発足当時は『あいつら』とバカにされたこともありました。スケートボード場建設への理解を求める署名活動では、『あまり良い印象を持っていないので協力しない』

と耳の痛い言葉も投げかけられました。それでも協会のメンバーは誰一人として文句を言わず、一緒に頑張って声を上げてくれた。彼らがいなければこの施設もできていなかったし、今の自分もなかったと思います」集めた署名は900人。スケートボードにかけける情熱が多くの人の心を動かした。幾多の苦難を乗り越え結ばれた友情は、彼らを新たなステージへと向かわせる。5月3日、阿南市で初めてとなるスケートボードコンテストの開催が決まった。もちろん阿南スケートボード協会が主催する。「何もかもが初めてで、運営から採点までいろんな人に教えてもらいながら準備を進めています」。入念に計画された企画書には「滑竹祭」の文字が。どこかで聞いたことがあるフレーズだが、と尋ねると、萩野さんは「特に意味はありません。」と笑ってのけた。イベント経費は10万円。会員が出し合った会費を充てる。「赤字必至ですね。」と苦笑しながらも、どこか充実感が漂っていた。草の根活動を続けること4年。今まで応援してくれた人、自分たちの活動に理解を示してくれた人、陰で支えてくれた家族への感謝の気持ちを胸に、晴れ舞台に臨む。そこで魅せてくれる最高のパフォーマンスは、若者文化に新たな時代を刻むだろう。

萩野 敦士さん (28歳・横見町)
阿南市内の会社に勤務・スケートボード歴10年
モットーは「努力」と「ポジティブ」



スケートボードスクールで準備体操をするようす



スケートボード場周辺を掃除する協会の皆さん



日時 5月3日(祝) 午前9時〜
会場 羽ノ浦健康スポーツランド
ドスケートボード場
問い合わせは 萩野 (☎090-1527612508)へ